

海況情報収集迅速化システム開発試験事業*

中地 良樹・杉村 允三・竹内 淳一

武田 保幸・調査船「わかやま」

船長 藤井 一人 他6名

目 的

本県沿岸域は黒潮の影響を受ける海域であり、黒潮の変動現象を把握することは、魚群分布・漁場形成の予測には不可欠な海況情報である。このため黒潮流域および黒潮内側域の迅速かつ詳細な海況情報を得るための収集システムを開発する。調査は南西海区水産研究所の指導調整のもと、(社)漁業情報サービスセンターと8県の関係試験研究機関が共同で実施した。

方 法

1. 調査船調査

和歌山県水産試験場調査船「わかやま」により沖合定線調査時にドップラー流速計(ADCP)による測流を実施した。観測に使用したADCPは古野電気製CI-30海流演算装置付きである。

2. 定地水温調査

日高郡由良町大引地先の定置網漁場にメモリー式自記水温計を設置した。観測水深は10mおよび20mである。

結 果

1. 調査船調査

4月から翌年3月までに12回(10月および1~2月は欠測、5月および7~8月は各2回)調査を実施し、結果は沖合黒潮調査速報で南西海区水産研究所・関係機関および県内漁協等にFAX送信した。

2. 定地水温調査

午前9時の水温観測結果は図1に示した。4月~6月は大引10m、7月~翌年3月は大引20mの観測である。

春季の外海系水の暖水波及は4月上旬にみられ、これは前年より半月ほど早かった。10m水温は、4月は16℃台から20℃台、5月は19℃台から23℃台、6月は初旬22℃台であったが上旬から中旬にかけて20℃台に低下し、その後徐々に昇温して下旬には22℃台となった。

20m水温は、7月の水温変動が21~27℃台と大きく、8月も上旬および中旬に23~28℃台の水温変動がみられた。8月の最高水温は28℃台となり、夏季は記録的な猛暑であったことから、気象の影響も大きかったものと推察される。水温は、9月上旬に28℃台となり中旬以降は降温に転じ短期日の変動を伴いながら下旬には25℃台となった。その後水温は降温して、10月は25℃台から22℃台、11月は22℃台から19℃台となった。12~1月には外海系水の暖水波及が観測され、12月は中旬(9

*海況情報収集迅速化システム開発試験事業費による。

～10日)、下旬(21～23日)、1月はたびたびみられた。なかでも1月中旬(17～18日)の暖水波及は規模が大きく、水温は15℃台から17℃台にジャンプした。12～1月の水温は21～15℃台であり、2月上旬に最低水温15℃台となった。その後は昇温に転じ、3月は15～17℃台と水温変動が大きかった。

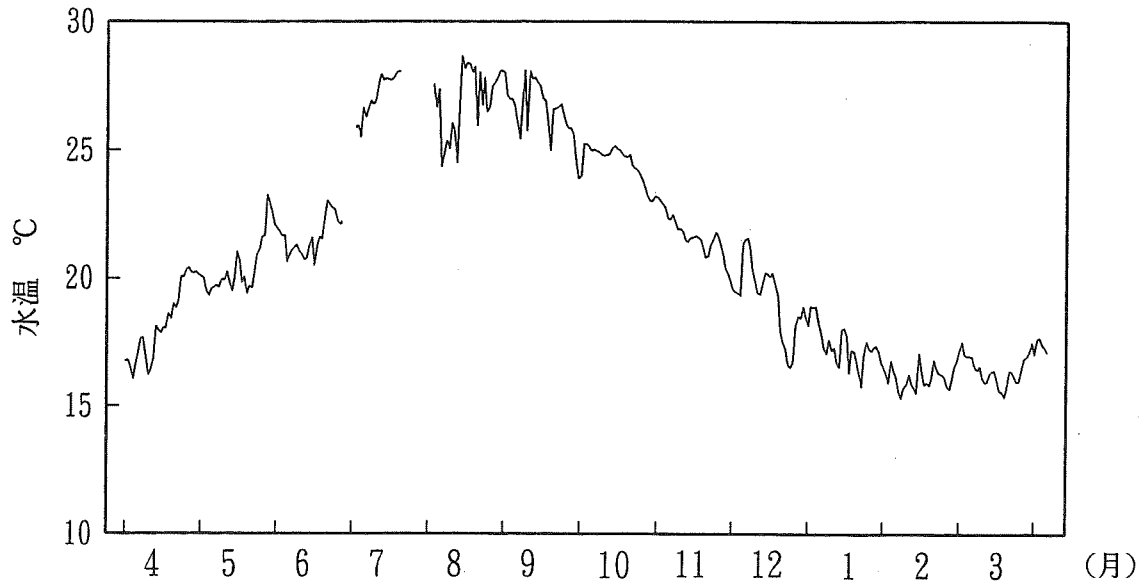


図1 大引10m、20m午前9時の水温観測結果(1994.4～1995.3)